

法話 いのちの葉
逃ぐるを

追はへとるなり

川添 泰信師
龍谷大学名誉教授

常に私たちを

蜘蛛の糸

芥川龍之介の作品に『蜘蛛の糸』があります。それは児童文学書として書かれたものです。今日では、アメリカの宗教研究者であったポール・ケーラスが書いた『カルマ』を、仏教学者の鈴木大拙が『因果の小車』というタイトルで翻訳したものが、芥川の『蜘蛛の糸』の背景にあると言われています。

内容は、お釈迦様が極楽の蓮池のふちを歩かれておられるとき、ふと蓮池の下を見られると、そこから見える地獄にいるカンダタが目に見えなくなりました。カンダタは大泥棒でしたが、蜘蛛の命を救ったことがあったので、お釈迦さまは救おうと思いい、蜘蛛の糸を垂らしたのです。カンダタはその糸を昇って地獄から出ようとしています。しかし、途中でカン

ダタが下を見ると、地獄の亡者が次から次へと昇ってくるのを見えました。糸が切れてはいけなないと、その亡者たちに「この糸はおれのもの。下りろ」と言った瞬間、糸が切れ、カンダタは再び地獄に落ちてしまった、という話です。



「赤い鳥」創刊号

大正7年7月1日より

阿弥陀仏

この話に、違和感を抱かれた方もおられるかと思えます。なぜ、お釈迦さまは地獄の亡者を救われなかつたのか、という点です。仏教が救いの宗教であれば、カンダタも救われなければならぬというところになります。

『蜘蛛の糸』の話の基になった『カルマ』で明らかにしようとした主題は、自分だけ地獄から逃れられたらいいという、人間の利己心、すなわ

ちエゴの問題だったのでしよう。それゆえカンダタは、再び地獄に落ちていったのだと思います。そして、自分のことしか考えないカンダタの姿こそが、私そのものでもあるのです。

仏教は救いを明らかにする教えです。親鸞聖人は、こうした救われたい私たちを救う仏こそが阿弥陀如来であると説かれます。

「撮取してすてざれば
阿弥陀となづけ
たてまつる」

と示し、「撮取」の言葉に

「ひとたびとりて
永く捨てぬなり」

「逃ぐるを追はへ
とるなり」

という説明をつけておられます。

悟りから逃避し、煩惱に狂わされている衆生を。追いつけてつかまえて救う。いわば、阿弥陀仏とは休むことなく、いつでも常に私たちを救わんと活動されている仏であると領解されているのです。

本願寺新報 令和5年3月1日号掲載
*領解 仏の教えを聞いて悟ること

住職より

○東日本大震災 13回忌

2011年(平成23年)の東日本大震災から12年目になります。年回忌は亡くなった年を1と数え始めるので、12年目の今年は13回忌となります。

教誓寺の御門徒には、地震による建物への被害はありましたが、けがや命に関わる被害はありませんでした。

それでも、地震後の不安や憂鬱な気持ちは、忘れることが出来ません。先月のトルコ・シリア地震では、東日本大震災の倍以上の人的被害が発生しています。地震対策を立てても、それが守られない事が被害を大きくしたと考えられています。

東日本大震災の13回忌を機に、私たちの地震対策を、もう一度おさらいしましょう。

あの時のように帰宅が困難になったとき、どうぞお寺にお立ち寄り下さい。一時の休憩と補給が出来るように備えをさらに整えて参ります。



○3月13日より新型コロナウイルス対策の様々な制限が解除され、卒業式でのマスクの着用自由の指導など、「終結宣言までもう少し」という状況となりました。

お寺としては、高齢の方も多くお参り下さることを考え、3月いっぱいにはマスクをつけて皆様をお迎えすることと致しました。

お参りにお出かけ下さる皆様には、それぞれのご判断で対応をお願い致します。

その他対策(消毒や説教台のパーテーション)も3月中は継続して、その後の状況に合わせて対応して参りたいと考えております。

もう少しで元通りの生活がかえってくるとおもいます。それまで、もう少し、一緒に我慢して過ごしましょう。



彼岸会法要のご案内

彼岸とは、仏さまのさとりの世界、お浄土のことです。様々な煩惱に生きる私たちの生活の中で、夕日が真西、お浄土の方向に沈む春分の日を中心とした1週間、彼岸(お浄土)を思いながらお勤めする法要です。

教誓寺彼岸会法要

3月21日(火)春分の日
午後2時よりお勤めします
ご都合のつく方は、
時間に合わせてお参り下さい
ご一緒にお勤めしましょう

*お彼岸の期間は

春分の前三日間と
後の三日間の七日間です。
今年、3月18日(土)
〜24日(金)です。
18日・19日・21日は人出
も多くなりがちです、平日
ならゆったりとお参り出来
ると思います。
ご都合が悪く、お出かけ
になれない時は、お寺にご
連絡を頂けば、お花とお線
香をお供えして、皆様に代
わっての墓参をお引き受け
します。

蓮の植え替え

昨年は、花が咲くときに急に寒くなり、ずっと曇り続けて、二輪目のつぼみが開かずに枯れてしまいました。

今年こそ、たくさんの開花を見るために、お彼岸後に蓮の植え替えを行います。蓮の鉢をひっくり返して、昨年秋季以降に育った蓮の根を選別して植え付けます。掘り上げた蓮根の大きくて元気な物から使いますが、あきらめるには惜しい蓮の根も出てきます。

もしよろしければ、おうちで蓮を栽培してみませんか。日当たりの悪いお寺でも咲きましたので、日当たりの良い場所で育てれば、きれいな花を咲かせてくれるでしょう。



維持(会)費

進納のお願い
教誓寺総代・世話人一同

令和5年度の教誓寺「維持費」のご進納をお願いいたします。

詳しくは、同封の別紙教誓寺維持費(護持会費)納入のお願いをご参照下さい。

振込の際、現金で払うと1件につき手数料が110円余計にかかります。

郵貯の口座からお支払いになるとお得です。

また、お寺にお持ち頂くときには、封筒に入れて

必ず記名の上お渡し下さい。

*維持会費用の封筒を用意しておりますのでご入用の時は、声をおかけ下さい。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
10810073
東京都港区三田 一十二一十一
〇三(四五)二二二九
kyousei.ji@jst4.so-net.ne.jp